学校法人 内丸学園
盛岡幼稚園
園報
第245号
（6月）
2018

ポートフォリオ

盛岡幼稚園　理事長　坂本　洋

新年度が始まり、新たに入園した子ども達もようやく自分の遊びに夢中になり、担任保育教諭やお友達との関わりも深まって、幼稚園が大好きとなり、楽しく遊びこむ姿が環境を通して培われる育ちとして確かめられるようになってまいりました。

本年は、従来の幼稚園教育要領や認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の保育指導内容が精査され、整合性が図られた改訂内容が実施されております。

これまで幼児教育は、環境を通して行うことを基本とし、幼児の主体的活動の遊びを中心とした、一人一人に応じた総合的な保育指導による「学び」を重視しておりましたが、この基本は変わっておりません。

この度の改訂の柱は、小学校、中学校、高等学校を終える段階で身に付けておくべき資質や能力が何かという観点から、育む資質・能力を三つの柱、①個別の知識や技能の基礎、②思考力、判断力、表現力等の基礎、③学びに向かう力、人間性等として示され、幼児施設においては小学校への接続を念頭に、幼児期の終わりまでに育って欲しい「10の姿」を具体的項目として掲げて育んで行くことにしております。【10の姿：健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、数量・図形、文字等への関心・感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現】

さて、このような具体的な姿を個別に成長記録としてまとめ、質的評価を保育者同士や保護者と、どのように子ども理解、育ちのプロセスとして確認し合い共有するかが長年の課題でした。

昨今、教育界においてその方法をポートフォリオという形で、子どもの育ちの可視化（動画や写真記録として）が進められており、本園でも改訂教育要領の実施に合わせて昨年の園内研修の重点目標として学習してきました。

この度、当園でのポートフォリオによる育ちの質的自己評価方法を取りあえずまとめましたので、順次保護者の皆様へも育ちの共有、可視化を進めてまいります。

その一端が、園内の子どもの活動掲示として展示しますし、その姿へのコメントが、育ちの目標とする観点から記述しておりますので、ご覧いただきます。

なお、以前は年間の育ちの姿を保育内容として文章でのご報告が多かったのですが、これからは、子どもの活動する姿を写真記録を取り入れた形式で、更には記録姿の説明記述にご注目して頂きたい内容としてまいりますから、保護者の皆様との更なる協働、ご支援をお願いいたします。

幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿

みんなでこいのぼりをつくろう

園長　坂本　信行

四月二十七日、子どもの健やかな成長を願う児童福祉週間に合わせて実施された県の「こいのぼり掲揚式」に、今年も年長組が参加し、達増知事と一緒にこいのぼりを掲揚してきた。

幼稚園でも、端午の節句に合わせて、各クラスとも発達年齢を考慮してこいのぼりを制作した。年長クラスでは、写真のようなこいのぼりが出来上がった。ビニールの大きなこいのぼりに、子ども達一人ひとりが描いたこいのぼりを鱗に見立て貼っていた。子どもの作品には、強い線で元気に泳いでいるのがあったり、柔らかい線で鱗一つひとつにカラフルな色で塗ってあったりして、こいのぼりに対する子ども一人ひとりの自分なりのイメージを楽しく表現していた。

今年度から認定こども園の教育・保育要領が改訂になり、実施されている。この教育・保育要領には、新たに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が十項目にわたって明示されている。幼稚園の教育要領や保育園の保育指針も同じく改訂になり、これらにも同じ十の姿が明示された。

十の姿の項目は、㋐健康な心と体、㋑自立心、㋒協同性、㋓道徳性・規範意識の芽生え、㋔社会生活との関わり、㋕思考力の芽生え、㋖自然との関わり・生命尊重、㋗数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚、㋘言葉による伝え合い、㋙豊かな感性と表現で、それぞれについて具体的な姿が述べられている。

年長クラスが協同で仕上げた写真の作品には、担任による次のような説明が記されていた。

―友達の絵を見て「上手だね」と認めたり、紙を貼る時に押さえてあげたりする姿も見られました。みんなの絵が集まると、グッとすてきな作品になりますね。「みんなで作ると楽しい」「面白くなった」という経験が協同性の育ちにつながります。―

担任説明にもあるように、こいのぼり制作が十項目の「協同性」の育ちに結びついている。また、この活動は、前に掲げた十の項目の「ことばによる伝え合い」や「豊かな感性と表現」の育ちにもつながっている。このように、日々の子ども達の遊びや活動を幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿と重ね合わせながら計画をたてたり、振り返ってみたりすることが大事である。

ここで気を付けなければならないのは、要領の解説にもあるように、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、到達目標ではないこと、また十項目をそれぞれ個別に取り出して指導されるものではないことである。このことは、遊びを通して総合的に指導することが幼児教育の基本だからである。また、この姿は幼児期の終わり頃に急に見られるようになるのではないため、0歳児から各年齢の発達段階を考慮して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことが肝要である。

年長組協同作品「みんなでこいのぼりをつくろう」

子どもの遊び・生活から

みんなと一緒だから

Aクラス担任　田口　千聖

年長に進級し、ちょっぴり背伸びをしながら過ごしていた子ども達。四月には、Cクラスのお部屋に行って朝の所持品の始末を手伝ったり、園内をめぐって場所や使い方を教えてあげたりしました。小さい子の目線に合わせて声をかける姿や、泣いている子をなんとかなだめようと必死にかかわる姿に、心が温まり、年長児としての自覚が芽生えてきたことを嬉しく感じました。

先日、愛宕山にある『タッピングの畑』にサツマイモの苗植えに行ってきました。園から畑まで約二キロの道のりを歩きます。最後の力を振り絞って登るリンゴ畑の坂道。励まし合いながら頂上の畑に着くと、「わぁ！ぼくたちがすごく大きくなったみたいだ。」と歓声があがりました。高い山の上から見下ろす盛岡の景色。達成感いっぱいの笑顔がとても印象的でした。その後、約五十本の苗を丁寧に植え、愛宕山展望台でお弁当を食べたり、山探険を楽しんできたりしました。こうした園外での体験も貴重な学びや刺激になっています。

これからも、心動かされる体験や景色を大切にしながら〝みんなと一緒だから頑張れた・楽しかった・面白くなった〟という経験を積み重ねていけたらと思います。

タッピングの畑

友達とのかかわりの中で

Bクラス担任　竹岡　真美

4月、新しい友達も仲間入りし、30名でスタートしたBクラス。元気いっぱい賑やかに毎日を過ごしており、好きな遊びの時間も、お部屋で、ホールで、園庭で、やりたいことを見つけて楽しむ姿が見られます。

ある日の園庭で「いらっしゃいませー！」と響く声。かき氷やさんとケーキやさんが隣合わせで開店していました。私も誘われて行ってみると、「何味がいいですか？」「お持ち帰りですか？」と賑やかな店員さん達。価格が1円だったり、400万円?!だったり、出したお金よりたくさんおつりがきたりもするので、思わず笑ってしまいながらかき氷もケーキもごちそうになって楽しませてもらいました。途中、いつの間にかお店の人になっていた子には、「〝入れて〟した？」とちょっと厳しい声が飛んでいたり、「僕もやりたいのに入れてくれない」としょんぼりしている子がいたり、一つの遊びの中にいろんな姿、いろんなやり取り、いろんな表情がありました。友達と一緒に遊ぶのはもちろん楽しいのですが、時にはうまくいかないこともあります。それを見守ったり、困っている時には話を聞いて一緒に考えたりしながら、友達とのかかわりの中で一人ひとりが成長できるように、と思っています。

『はじめてがいっぱい！』

C1クラス担任　向井　里奈

4月、新しいエプロンに赤・黄色のバッジをつけ、嬉しそうに見つめる子供たち。幼稚園生活のスタートはいろんな『はじめて』に出会います。入園式でのお返事、身の回りの準備、新しい先生や友達、お部屋…など、『はじめて』がいっぱい。その中で嬉しい反面、新しい環境への不安やうまく出来ない思いから、泣いたり怒ったり戸惑ったりと、その子なりに表現する毎日です。そんな子供たちもたくさんの『はじめて』の中で少しずつ「楽しい」と感じることを見つけ、表情が和らぎ笑顔もたくさん見られるようになりました。「自分らしさ」が出せるようになったからこそのトラブルもまた『はじめて』のこと。一生懸命自分の

思いを伝えようとしています。

はじめての裸足遊びの日…手とは違う足での感触に、かかとを上げてつま先歩きする姿がまた可愛く、『はじめて』のドキドキ感が伝わってきたひと場面でした。6月参観日では、お家の人が来る嬉しさに〝一人で出来るようになった自分〟を自慢げに見せる姿もあり、この短い期間での成長ぶりに、子供の力を感じ驚かされています。

これからもそれぞれの『はじめて』に寄り添い、子供たちの育ちを支えていきたいと思います。

日々の大切さ

ふたば担任　相原恵津子

4月に新しい生活がスタートし三ヶ月が過ぎようとしています。保育部は今年度も0歳児6名、1歳児18名、2歳児18名で4月を迎えました。当初は初めての園生活を不安の中で過ごす様子の子達でしたが、今は自分なりに好きな遊びを楽しむ姿も見られるようになりました。天気の良い日には戸外に出て、体を動かして遊ぶ機会も増えてきています。

ふたばでは「散歩」が日課となっています。以前は大泣きで担任におんぶ、抱っこでのお出かけでしたが今は、散歩にでることを喜び、声を出してみたり、歩ける子は靴を履いて歩くことも楽しめるようになりました。このような姿が見られるようになってきたのも、毎日の生活の中で、幼稚園での生活を安心して過ごせるようになってきたからと思います。

0歳児のこの1年はハイハイからつかまり立ち、歩き始め、と成長がとても大きい1年です。日々の成長を支え、見守っていく私たちの役割の大切さを感じながら毎日大切に過ごしていきたいと思っています。

「楽しいねお散歩…」ふたばクラス

ついにAクラス

ふたば会 会長　林　鮎美

「いえっちゃまのみなによっておちゃちゃれいたします！あーねん！」Cクラスの頃息子は、食事の前に手を組んで、張り切ってこう言っていました。まるで何かの呪文のようで、お祈りの言葉には聞こえませんでしたが、幼稚園で覚えた事を得意げに、ドヤァ！と披露する姿を見て、微笑ましく思いました。そんな〝おちゃちゃれ息子〟もついに年長。入園当初からは想像もつかない程の成長に驚くばかりです。幼稚園最後の一年も、沢山遊び、学び、小学校へ向けて色んな事に挑戦しながら、先生やお友達と素敵な思い出を作ってほしいと思います。

そして母である私も、今年度は、初めての役員・会長に挑戦の年です。他の役員の方、先生方、保護者の皆様のお力をお借りしながら、子供たちの一年間が充実したものになるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

編集後記

平成30年度も無事にスタートし約三ヵ月が経ちました。泣き声が響き渡っていた頃が懐かしく思い出されるほど、今では笑い声や元気な声が園内に響き渡っています。

先日「花の日礼拝」が行われました。アメリカから始まったと言われている「花の日礼拝」ですが、当園でも長く続けている大事な行事の一つです。昨今は、お花屋さんで用意して下さる家庭が多くなりました。当日の朝、嬉しそうにお花を持ってくる子ども達。たくさんのお花に「わ～」と感嘆の声をあげる子ども達。見たことのないお花に関心を持って見つめる子…。そして何よりたくさんのお花を目にし、にこにこの笑顔の子ども達。お子さんと一緒にお花を選んでいる～その光景が目に浮かんできました。一年に一度だけですが、お花を選び、日頃からお世話になっている方々への感謝の気持ちを持つ一日をこれからも大切にしていきたいと思います。

学校法人　内丸学園
幼保連携型認定こども園
盛　岡　幼　稚　園
〒〇二〇―〇〇二一
盛岡市中央通一―六―四七
TEL六二二―二三〇一
理事長　坂　本　洋